

# SWEETS GARDEN POPO

## 今西 篤史 さん しおりさん



2025年北海道洋菓子作品コンテスト大会  
ギフト菓子部門金賞受賞作品  
「信州菓子くるみのエンガディナー」



ここに書ききれないエピソードや写真は  
当別町ホームページ「現代を生きる<sup>プラス</sup>」  
でご覧ください。



## お祝い事を手助けできる ケーキ屋さん

ケーキ店「SWEETS GARDEN POPO」を経営している今西篤史さん・しおりさんご夫婦にお話を伺いました。

### 当別町でケーキ店を

篤史 小さい頃に母がよくケーキを作ってくれていたこともあり、高校の進路選択のときに興味を持っていたケーキ屋さんをやりたと思ったことがきっかけでした。その後札幌でパティシエとして就職して、フランスで1年間修行をして日本に戻り、結婚を機に妻の実家がある太美でケーキ店を始めました。SWEETS GARDEN POPOの「POPO」という名前は、私の実家が経営していたパン屋さんの「手作りパン歩帆」という字から取っていて、1歩ずつ、少しでも前に進んでいきたいという意味があります。お店の前のガーデニングスペースも活用しながら、スイーツと自然の庭を楽しんでもらうことをコンセプトに経営しています。

しおり 私は、ショーケースに並んでいるケーキを見ているお客様が、思わず笑顔になる様子が好きで、自分もこんなケーキを作れるようになりたいと思い、パティシ

エを目指しました。

### 地元の食材を活かしたスイーツ

篤史 当別町産の食材は新鮮で、味の特徴もはっきりしているので、その味を活かしたスイーツを作ることが多いです。例えば、春の季節の当別町産いちごはととも甘くて美味しいですが、いちごの甘さがより引き立つようにケーキよりもタルトに使用するなど、味の魅力を活かしたスイーツを作るよう心がけています。

しおり 作ったスイーツを見たお客様が、味や使われた食材を連想できるようなデザインを意識して、商品づくりに取り組んでいます。以前コンテストで金賞を受賞した「信州菓子くるみのエンガディナー」という焼き菓子は、素材にくるみが使われていることが連想できるよう、菓子の表面に凸凹を付けたり、飾りつけにくるみの殻を使用するなど工夫をしています。

### お客様の声を励みに

篤史 個人で経営しているお店なので、お客様に直接顔を合わせて「美味しかった」と感想をいただいた時に、とてもやりがいを感じます。また、お店が太美にあるの

で、当別本町で開催されるイベントに出店した際に、「こっちに来てくれてありがとう」と感謝の言葉をいただいたことも嬉しかったです。

### お祝い事に寄り添うケーキ作り

篤史 お客様により美味しいスイーツを提供したいのはもちろんですが、ガレット・デ・ロアのような、伝統的なフランスの古典菓子も好きなので、その良さをもっと皆様に知ってもらえるように商品開発に取り組んでいきたいです。しおり 現在も母の日や父の日、バレンタインデーのような、誰かにお菓子をプレゼントするイベントに合わせた限定のケーキをお出ししていますが、今後もそのようなイベントを盛り上げていけるケーキを作りたいです。人生の中で、お祝い事はたくさんありますが、そんな皆様のお祝い事を手助けできるケーキ屋さんをこれからも目指していきたいです。

SWEETS GARDEN POPOの情報をInstagramで公開しています。ご覧ください。

